

石川県におけるヤマヒバリの初越冬記録

大門久之

〒926-0058 石川県七尾市湊町1丁目63-5 (日本野鳥の会石川支部)

ヤマヒバリ *Prunella montanella* は、シベリア東部と極東北部の山岳地帯の高山帯・寒帯で繁殖し、冬期には、モンゴル・中国北東部・朝鮮半島に渡る。日本には希な冬鳥や希な旅鳥として渡来する (日本鳥学会 1974, 清棲 1965)。1998年1月22日, 23日, 1月30日から3月29日まで石川県において本種1羽の越冬が観察されたので報告する。

観察地は、石川県鹿島郡田鶴浜町川尻川河口 (37°03'N, 136°54'E) に広がるヨシヤススキなどの草がはえた1.3haの範囲である (図1)。ヤマヒバリはほぼ毎日観察されたことから、この個体は同一個体であると思われた (図2)。ヤマヒバリは1羽で、ノイバラやカキそしてクロマツなどにとまったり、ヨシヤススキ・草本などの地面に降りて採食しているところがよく観察された。

その後1月24日から降雪があり、積雪24cmにもなり、ヤマヒバリは1月30日まで観察されなかった。それは積雪があり、地表で採食できなかったためであると思われた。この場所では、そのほかにオオジュリン *Emberiza schoeniclus*, カシラダカ *E. rustica*, ホオジロ *E. cioides*, ホオアカ *E. fucata*, コホオアカ *E. pusilla*, アトリ *Fringilla montifringilla*, ツグミ *Turdus naumanni*, スズメ *Passer montanus*, ツリスガラ *Remiz pendulinus* などが観察され、チュウヒ *Circus aeruginosus* が飛来すると、これらの種はすぐ飛び去ってしまったが、ヤマヒバリはやぶのなかにもぐってしまい、飛び去ったりしなかった。警戒心があまりないのか、4~5mまで人が近づいても、地表で採食しているのが観察された。ヤマヒバリは、最近に



図1. 調査地 (川尻川河口)
Fig. 1. Location of study area, around the mouth of the Kawashiri River.



図2. ヤマヒバリ越冬個体
Fig. 2. Wintering Siberian Accentor.

1998年11月15日 受理

キーワード：石川県, 越冬記録, ヤマヒバリ

なって記録例が増えており、大陸から直接渡来する可能性がある（筒淵・藤巻 1998）。

石川県内では旅鳥として（高野 1982, 日本野鳥の会石川支部 1986）、秋に毎年舩倉島で数羽が観察されているが、今回の記録は石川県における越冬初記録である。

本短報をまとめるにあたり、文献を紹介していただいた日本野鳥の会石川支部の竹田伸一氏に感謝の意を表したい。

引用文献

日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録改訂第5版. 学研, 東京.

清棲幸保. 1965. 日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.

筒淵美幸・藤巻裕蔵. 1998. 北海道におけるヤマヒバリの記録. 日鳥学誌47: 21-23.

高野伸二. 1982. フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会, 東京.

日本野鳥の会石川支部. 1986. 舩倉島・セツ島の自然. 石川県環境部/橋本確天堂, 石川.

The first wintering record of Siberian Accentor in Ishikawa Prefecture.

Hisayuki Daimon

1-63-5 Minato Town, Nanao City, Ishikawa 926-0058

One Siberian Accentor *Prunella montanella* was observed from January 22, 1998 to March 29, 1998 at the mouth of the Kawashiri River in Tatsuruhama District, Ishikawa Prefecture. This is the first wintering record of Siberian Accentor in Ishikawa Prefecture.

Key words: Ishikawa Prefecture, Siberian Accentor, wintering record.